

夕刊  
**新報**  
 行發日一十二月四  
 定価 一月五元 三月十元 半年二十元 一年四十元  
 社址 磐城新聞社  
 印刷 磐城新聞社  
 電話 二二二二  
 支店 仙台 盛岡 秋田 青森 岩手 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 徳島 香川 高松 岡山 広島 山口 徳島 香川 高松 岡山 広島 山口 徳島 香川 高松 岡山 広島 山口

山口正夫の童謡集  
 出版に就いて (中)  
 加藤輝雄

以上の童謡詩を見ても解るやうに、彼の童謡は、いかにも手際いのである。しかし、ユーモアの缺けてゐるのは争へない、この、堅さから脱せぬところは直ちに彼の集團(乃ち童謡詩派)の缺點であり、また主宰する島田忠夫の缺點であり、島田忠夫の舊師島本赤彦の缺點でもあらう。

しかるに一面、浮遊さの少しもなきところは、充分に買へるではないか、老いたる雨情、才に走れる八十には驚められぬ所である。また白秋一派の氣の利き過ぎたるよりは、はるかに圓滑である。惜しむらくは、除りに智的なことである。

雪空  
 山口正夫

今日は學校  
 半日で  
 午後から畑へ  
 行きました  
 まるみをおびた  
 山際が  
 とざれどざれに  
 かくされて  
 陽の落ちかゝる  
 山の村  
 外はしんしん

公園春景  
 島田忠夫

公園の櫻見るともまれ  
 となり陽ざし温き日に  
 あひてたぬしき

さくらの枝おほにふり  
 り日あたりの殊によろし  
 き處は早し

池の上にみながら垂るる  
 枝ひくしふ、ゆるる葉かせ  
 に揺れつつ

道のべに自轉車おきて  
 道くさくふとにあらし小  
 僧も遊ぶ

松ヶ岡のさくら咲くとき  
 至れるにすし驚く下心  
 はや

梅の木につないだ  
 馬の顔  
 馬箱に首  
 つつこんで  
 二ばれを拾ふ  
 軍鶏のむれ  
 時計の打つ音  
 陽は眞晝  
 これらの作に就ても、同  
 じことが云へやう。

紅梅のたぐれしが今  
 盛りなる山くぼに下りて腰す  
 えにけり

さし交す枝の間に一と  
 ころ黒める枝やてくす病な  
 らし

町にかへりて忙しき  
 稿を書き了へつころゆたけ  
 く一にち遊ぶ

山口正夫

山口正夫は、長らく兒童  
 の教育に携はる實際経験者  
 である。この點、童謡詩派  
 のびて

拾華傳笑  
 いり續く平つ子  
 の人工種つけ  
 散る花に響く城  
 座談會で快氣焔  
 渡り來て古巢見  
 のかしらに新緑  
 を受飛ばした平  
 の淺黄暮おる  
 の野球常連  
 初夏の氣流ふ

元禄名妓傳  
 小邑井小巴演  
 (宮野恒彦著)  
 五十二席

お前はオドロ／＼しながら  
 山口の今出版される童  
 謡詩『野の雉子』は、かれは  
 阿方様ではございませぬ  
 が數年間の兒童教育の経験  
 どうぞ私には此の儘かしわ  
 より煮み出せる尊い作品集  
 である。

お前は其賊に欺されても  
 いかうでなければ其賊  
 シテ其の者が當所に居ると  
 たのか然うでなければ其  
 の手下でもなつて働くの  
 は誰から聞いた『房』芝  
 出で來たものだと言ふこ  
 と何れは迂曲くさいもの  
 か何れは居るのだ江本町  
 三から浦賀の伊豆屋孫兵衛  
 と見られない人三化七  
 丁目小西屋の娘などは眞  
 云ふ方へ手紙を貰つて參つ  
 ツ赤な偽り拙者の廻り二千  
 ところ途中で災難に遇ひ  
 石に目を着け、何か計略を  
 施すためお前のような美し  
 い女を寄こした、確かに賊  
 豆屋孫兵衛ではなくか  
 手先であらうどうだ『房』  
 屋伊八だと申され、かしわ  
 『ネツ減相、聞くも恐ろ  
 しい海賊などの手先ではあ  
 りませぬ、全く江戸の小  
 西の娘ふと申す者に違ひ  
 手引をする奴は其の伊豆  
 屋の娘ふと申す者に違ひ  
 れば夫でも好い、シテ此  
 の等のものに相違ないから  
 益千代に頼みがあつて來た  
 追つて取調せさせるが



お前は其賊に欺されても  
 いかうでなければ其賊  
 シテ其の者が當所に居ると  
 たのか然うでなければ其  
 の手下でもなつて働くの  
 は誰から聞いた『房』芝  
 出で來たものだと言ふこ  
 と何れは迂曲くさいもの  
 か何れは居るのだ江本町  
 三から浦賀の伊豆屋孫兵衛  
 と見られない人三化七  
 丁目小西屋の娘などは眞  
 云ふ方へ手紙を貰つて參つ  
 ツ赤な偽り拙者の廻り二千  
 ところ途中で災難に遇ひ  
 石に目を着け、何か計略を  
 施すためお前のような美し  
 い女を寄こした、確かに賊  
 豆屋孫兵衛ではなくか  
 手先であらうどうだ『房』  
 屋伊八だと申され、かしわ  
 『ネツ減相、聞くも恐ろ  
 しい海賊などの手先ではあ  
 りませぬ、全く江戸の小  
 西の娘ふと申す者に違ひ  
 手引をする奴は其の伊豆  
 屋の娘ふと申す者に違ひ  
 れば夫でも好い、シテ此  
 の等のものに相違ないから  
 益千代に頼みがあつて來た  
 追つて取調せさせるが

お前は其賊に欺されても  
 いかうでなければ其賊  
 シテ其の者が當所に居ると  
 たのか然うでなければ其  
 の手下でもなつて働くの  
 は誰から聞いた『房』芝  
 出で來たものだと言ふこ  
 と何れは迂曲くさいもの  
 か何れは居るのだ江本町  
 三から浦賀の伊豆屋孫兵衛  
 と見られない人三化七  
 丁目小西屋の娘などは眞  
 云ふ方へ手紙を貰つて參つ  
 ツ赤な偽り拙者の廻り二千  
 ところ途中で災難に遇ひ  
 石に目を着け、何か計略を  
 施すためお前のような美し  
 い女を寄こした、確かに賊  
 豆屋孫兵衛ではなくか  
 手先であらうどうだ『房』  
 屋伊八だと申され、かしわ  
 『ネツ減相、聞くも恐ろ  
 しい海賊などの手先ではあ  
 りませぬ、全く江戸の小  
 西の娘ふと申す者に違ひ  
 手引をする奴は其の伊豆  
 屋の娘ふと申す者に違ひ  
 れば夫でも好い、シテ此  
 の等のものに相違ないから  
 益千代に頼みがあつて來た  
 追つて取調せさせるが

お前は其賊に欺されても  
 いかうでなければ其賊  
 シテ其の者が當所に居ると  
 たのか然うでなければ其  
 の手下でもなつて働くの  
 は誰から聞いた『房』芝  
 出で來たものだと言ふこ  
 と何れは迂曲くさいもの  
 か何れは居るのだ江本町  
 三から浦賀の伊豆屋孫兵衛  
 と見られない人三化七  
 丁目小西屋の娘などは眞  
 云ふ方へ手紙を貰つて參つ  
 ツ赤な偽り拙者の廻り二千  
 ところ途中で災難に遇ひ  
 石に目を着け、何か計略を  
 施すためお前のような美し  
 い女を寄こした、確かに賊  
 豆屋孫兵衛ではなくか  
 手先であらうどうだ『房』  
 屋伊八だと申され、かしわ  
 『ネツ減相、聞くも恐ろ  
 しい海賊などの手先ではあ  
 りませぬ、全く江戸の小  
 西の娘ふと申す者に違ひ  
 手引をする奴は其の伊豆  
 屋の娘ふと申す者に違ひ  
 れば夫でも好い、シテ此  
 の等のものに相違ないから  
 益千代に頼みがあつて來た  
 追つて取調せさせるが

お前は其賊に欺されても  
 いかうでなければ其賊  
 シテ其の者が當所に居ると  
 たのか然うでなければ其  
 の手下でもなつて働くの  
 は誰から聞いた『房』芝  
 出で來たものだと言ふこ  
 と何れは迂曲くさいもの  
 か何れは居るのだ江本町  
 三から浦賀の伊豆屋孫兵衛  
 と見られない人三化七  
 丁目小西屋の娘などは眞  
 云ふ方へ手紙を貰つて參つ  
 ツ赤な偽り拙者の廻り二千  
 ところ途中で災難に遇ひ  
 石に目を着け、何か計略を  
 施すためお前のような美し  
 い女を寄こした、確かに賊  
 豆屋孫兵衛ではなくか  
 手先であらうどうだ『房』  
 屋伊八だと申され、かしわ  
 『ネツ減相、聞くも恐ろ  
 しい海賊などの手先ではあ  
 りませぬ、全く江戸の小  
 西の娘ふと申す者に違ひ  
 手引をする奴は其の伊豆  
 屋の娘ふと申す者に違ひ  
 れば夫でも好い、シテ此  
 の等のものに相違ないから  
 益千代に頼みがあつて來た  
 追つて取調せさせるが

お前は其賊に欺されても  
 いかうでなければ其賊  
 シテ其の者が當所に居ると  
 たのか然うでなければ其  
 の手下でもなつて働くの  
 は誰から聞いた『房』芝  
 出で來たものだと言ふこ  
 と何れは迂曲くさいもの  
 か何れは居るのだ江本町  
 三から浦賀の伊豆屋孫兵衛  
 と見られない人三化七  
 丁目小西屋の娘などは眞  
 云ふ方へ手紙を貰つて參つ  
 ツ赤な偽り拙者の廻り二千  
 ところ途中で災難に遇ひ  
 石に目を着け、何か計略を  
 施すためお前のような美し  
 い女を寄こした、確かに賊  
 豆屋孫兵衛ではなくか  
 手先であらうどうだ『房』  
 屋伊八だと申され、かしわ  
 『ネツ減相、聞くも恐ろ  
 しい海賊などの手先ではあ  
 りませぬ、全く江戸の小  
 西の娘ふと申す者に違ひ  
 手引をする奴は其の伊豆  
 屋の娘ふと申す者に違ひ  
 れば夫でも好い、シテ此  
 の等のものに相違ないから  
 益千代に頼みがあつて來た  
 追つて取調せさせるが

お前は其賊に欺されても  
 いかうでなければ其賊  
 シテ其の者が當所に居ると  
 たのか然うでなければ其  
 の手下でもなつて働くの  
 は誰から聞いた『房』芝  
 出で來たものだと言ふこ  
 と何れは迂曲くさいもの  
 か何れは居るのだ江本町  
 三から浦賀の伊豆屋孫兵衛  
 と見られない人三化七  
 丁目小西屋の娘などは眞  
 云ふ方へ手紙を貰つて參つ  
 ツ赤な偽り拙者の廻り二千  
 ところ途中で災難に遇ひ  
 石に目を着け、何か計略を  
 施すためお前のような美し  
 い女を寄こした、確かに賊  
 豆屋孫兵衛ではなくか  
 手先であらうどうだ『房』  
 屋伊八だと申され、かしわ  
 『ネツ減相、聞くも恐ろ  
 しい海賊などの手先ではあ  
 りませぬ、全く江戸の小  
 西の娘ふと申す者に違ひ  
 手引をする奴は其の伊豆  
 屋の娘ふと申す者に違ひ  
 れば夫でも好い、シテ此  
 の等のものに相違ないから  
 益千代に頼みがあつて來た  
 追つて取調せさせるが

お前は其賊に欺されても  
 いかうでなければ其賊  
 シテ其の者が當所に居ると  
 たのか然うでなければ其  
 の手下でもなつて働くの  
 は誰から聞いた『房』芝  
 出で來たものだと言ふこ  
 と何れは迂曲くさいもの  
 か何れは居るのだ江本町  
 三から浦賀の伊豆屋孫兵衛  
 と見られない人三化七  
 丁目小西屋の娘などは眞  
 云ふ方へ手紙を貰つて參つ  
 ツ赤な偽り拙者の廻り二千  
 ところ途中で災難に遇ひ  
 石に目を着け、何か計略を  
 施すためお前のような美し  
 い女を寄こした、確かに賊  
 豆屋孫兵衛ではなくか  
 手先であらうどうだ『房』  
 屋伊八だと申され、かしわ  
 『ネツ減相、聞くも恐ろ  
 しい海賊などの手先ではあ  
 りませぬ、全く江戸の小  
 西の娘ふと申す者に違ひ  
 手引をする奴は其の伊豆  
 屋の娘ふと申す者に違ひ  
 れば夫でも好い、シテ此  
 の等のものに相違ないから  
 益千代に頼みがあつて來た  
 追つて取調せさせるが

お前は其賊に欺されても  
 いかうでなければ其賊  
 シテ其の者が當所に居ると  
 たのか然うでなければ其  
 の手下でもなつて働くの  
 は誰から聞いた『房』芝  
 出で來たものだと言ふこ  
 と何れは迂曲くさいもの  
 か何れは居るのだ江本町  
 三から浦賀の伊豆屋孫兵衛  
 と見られない人三化七  
 丁目小西屋の娘などは眞  
 云ふ方へ手紙を貰つて參つ  
 ツ赤な偽り拙者の廻り二千  
 ところ途中で災難に遇ひ  
 石に目を着け、何か計略を  
 施すためお前のような美し  
 い女を寄こした、確かに賊  
 豆屋孫兵衛ではなくか  
 手先であらうどうだ『房』  
 屋伊八だと申され、かしわ  
 『ネツ減相、聞くも恐ろ  
 しい海賊などの手先ではあ  
 りませぬ、全く江戸の小  
 西の娘ふと申す者に違ひ  
 手引をする奴は其の伊豆  
 屋の娘ふと申す者に違ひ  
 れば夫でも好い、シテ此  
 の等のものに相違ないから  
 益千代に頼みがあつて來た  
 追つて取調せさせるが

胃腸梅毒  
 専門科  
 皮膚病  
 淋病  
 婦人科  
 夜間診療  
 昭和六年四月四日

大谷時計病院  
 十燭以下十二錢  
 五十燭マテ十八錢  
 御電報ガレバ届ケマス  
 平三  
 電話十九番

ガス入電球  
 値下  
 次又値下

市原病院  
 院長 市原卯太郎  
 平町南町電一二四

上田外科醫院  
 院長 上田耕作  
 平町南町電一二九

小名濱商事株式會社  
 平出張所  
 電話 五〇三番

生徒募集  
 和服一般婦人洋服  
 小供洋服  
 小笠原流禮法  
 手藝池ノ坊生花ハ御希望ニヨ  
 教授授致シマス  
 昭和六年四月四日  
 阿部裁縫塾

長靴防水マント  
 小學生用  
 5丁目電353番  
 モリタヤ洋品店

吉田眼科病院  
 平町紺屋町

外科  
 平新川町十九  
 木村病院

おぼろ梅月  
 西のおぼろ梅月  
 電話 五〇三番

# 行樂の三春は逝いて

## 生氣躍動の初夏

### 落花を叩く鐘の音を木の頭に 静かに降される新緑の淺黃暮

春逝かんとす。新川端や、松ヶ岡に展開された嫩粉の花吹雪を最後として、もはや呆気なくおしまひとなる。嗚呼玉金に花うけて、綠酒に月の影やどし、治安の夢に耽りたる榮華の巻——どこかの寮歌のそれではないが、なほおふ松ヶ岡公園の夜ざくらも明二十二日の夜限り満山の電飾が撤去されてまた春を待たねばその美観に接する事が出来ない事になる。而も年々花々相同じ歳々年々人同じからず。來ん春の花を見得ざる人蓋し幾人ぞ歡樂の後の哀愁、げに晩春こそ人生に最も物寂しいシーズンではあるよ。アッ！いけねえ、新聞の記事もどうもつぼむつぼむなつては賣れなくなる。ペン先を一轉して生々躍動する初夏の巻を——

# 葉櫻の新緑を彩る

## 平町自慢のツツジ

### 來月初旬に咲き初め

遠近多數の出入を喰る

落花に鐘はつきもの、くれ十日頃迄の間は賑わい始め、なほ褪せた花がチラチラと鳴る。平町のツツジは、さういふおん……と鳴る。平町のツツジは、さういふおん……と鳴る。平町のツツジは、さういふおん……と鳴る。

# 大掛りな 宣傳

## 各町村舉つて 衛生思想を強調

### 平署管内に於ける 結核豫防代行

平署では来二十七日全國一催した出品品数は百二十……

# 川前村木炭 品評會成績

## 昨二十日開催

川前村木炭炭出商組合主催……

# 阿部氏等提唱の 磐陽野球後援會

## 昨宵の座談會

正式に組織さる

# 小名農會總代

## 補選で全員決定

昨二十日午後七時から……

# 今年のお花見

## 昨年より著しい減少

平驛の乗降人員統計

# 物事の見事に成功

## 自動車輸送の精子が 健全な馬とならぬ

### 美化運動第一

花が終つた今度は葉櫻……

### 平青年團幹部一行 茨城千葉方面へ

参拜と見學旅行

### 阿部政右衛門氏等を中心として

磐陽野球後援會の座談會……

### 小名農會總代 補選で全員決定

昨二十日午後七時から……

### 今年のお花見 昨年より著しい減少

平驛の乗降人員統計

### 物事の見事に成功 自動車輸送の精子が 健全な馬とならぬ

スपीドアップの人工交配

### 藤沼醫院

平町紺屋町電五〇七

### 石炭大廉賣!!!

正味千貫目一俵 金井錢也

### 安齊外科醫院

平町紺屋町電四三六番

### 山崎合名會社

電話一〇番

### 春衣新柄御案内

銘仙とモスリン着尺

### 三井呉服店

優秀特選 春の帯側

### 大和田醫院

耳鼻、咽喉科 専門

### 高久病院

内科、外科、小兒科

### レコード破りの 石炭大廉賣!!!

正味千貫目一俵 金井錢也

御注文は 電話二三七番

### 安齊外科醫院

平町紺屋町電四三六番

### 山崎合名會社

電話一〇番

### 春衣新柄御案内

銘仙とモスリン着尺

### 三井呉服店

優秀特選 春の帯側

### 大和田醫院

耳鼻、咽喉科 専門

### 高久病院

内科、外科、小兒科

### 藤沼醫院

平町紺屋町電五〇七

### 平町田町

電話五二三番